



橋 戸

令和3年2月27日

学校だより 第12号

練馬区立橋戸小学校

校長 青木 俊哉

一年の終わりに考える ～「生き抜く力」を身に付けるとは…～

校長 青木 俊哉

2月の最終週を保護者会ウィークとしました。連合作品展に代わる本校独自の形式で行った「6年生作品展」をはじめ、各学年の廊下やワークスペースには、様々な学習の足跡となる作品や資料が掲示されています。今年度は、感染予防もあり保護者会は年2回だけ、教室での授業公開も10月の道德公開のみと、保護者の皆様が来校する機会も少なくなる中、少しでも子供たちの学びの成果を知らせようと、先生たちも力を入れて準備しておりました。そんな掲示物の中で、私の目を引いたのは、2年の廊下掲示です。

「明日へダッシュ！」という生活科の学習のまとめの作品です。8歳を迎えた子供たちが、自分自身のこれ迄をたどり、小学校2年間の学びを振り返り、自分のこれからを見通して考える…そんな学習です。ワークシートには、以下の4項目が示されていました。①大切にしたいこと ②今の自分のいいところ ③3年生になったら ④将来の夢 その中で、「将来の夢」に目が留まりました。43人の2年生ですが、ざっと見ただけでも30を超える職業名が書かれており、まずはその多様さに驚きました。一人一人が自分の夢を大事にし、一生懸命考える姿を想像し、感動を覚えたものです。似たような職業をまとめると、販売・流通・飲食系（10人）、ゲーム、コンピューター等情報系（8名）、スポーツ関係（8名）、子供と関わる職業（7名）、ものづくり（7名）、医療・美容系（6名）といったところが多かったようです。子供たちの将来の夢という、自分の子供時代は“プロ野球選手かスチュワーデス（キャビンアテンダント）、歌手やタレント”など華やかな世界にあこがれる子が多かった記憶がありますが、ここ十数年の子供たちの願いは、以下のように変わってきています。（日本FP協会調べ）

	2019年		2014年		2009年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1位	サッカー関係	看護師	サッカー関係	医者	野球選手関係	パティシエール
2位	野球選手関係	教師	医者	パティシエール	サッカー関係	保育士
3位	医者	保育士	野球大会関係	保育士	学者、研究者	教師
4位	会社員	医者	ゲーム関連	獣医師	医者	医者
5位	ゲーム関連	美容師	シェフ、調理師	教師	他のスポーツ	デザイナー

夢や願いを実現するには努力が欠かせません。その道に進むために必要な情報を入手し、自ら進路を選び、一つ一つハードルを越えていく行程が求められます。中には厳しい道や高いハードルもあるでしょうし、大きな壁にぶち当たることもあります。“そんな時どうするか…”、その力こそ“生き抜く力”と考えます。小学生時代に経験する様々な学びの機会は、まさに“その原点、出発点となるもの”です。

少し前に、6年生の教室で見た国語の学習場面を思い出しました。石戸奈々子さんの「プログラミングで未来を創る」という教材を基にした学習です。「今から〇〇年後には、今ある職業の〇〇%はAIに代わられ、なくなってしまう。」という一見ショッキングな内容の教材文、確か一昨年話題となったシンギュラリティ（技術的特異点）・2045年問題を切り口にプログラミングの価値や意味を子供向けに説いた文章ですが、内容的には奥が深く、苦勞しながら読み解く子供たちの姿が印象に残っています。AI、人工知能を取り巻く技術が今後さらに高まり2045年には消えるとされる職業のリストを、2年生のなりたい職業と安易に並べて比べるつもりはありませんが、一方、2045年には、今の6年生は37歳、2年生は33歳を迎えており、社会の中核を担い様々な職業を支える年代として活躍が期待される、そんな年でもあります。2年後…遠い先のことですが、未来を見据え、その時代に必要な力を身に付けること、また生涯に渡って学び続けることこそ、AIと共存し今後を生き抜くために必要なことではないでしょうか。

3月、コロナに追われた一年を締めくくる月は、“これで終わる月”ではなく、“次の準備の月”です。